

地域ぐるみで支え合いましょう

大災害が発生したとき、交通網の寸断などにより、防災機関が十分に対応できないおそれがあります。そんなときに頼りになるのが「地域ぐるみの協力体制」です。日ごろから地域の防災活動に参加することが、自分の家族や家を守ることに繋がります。年齢や性別にかかわらず地域の防災活動に積極的に参加しましょう。

自主防災活動に参加しましょう

平常時の活動

防災知識の普及・啓発

防災訓練や講習会を通じて、正しい防災知識を住民に伝える。

防災資機材の整備・点検

地域の実情に応じて、消火用具や避難・救出のための防災資機材を準備する。

自主防災組織の活動でまず重要なのは、防災上の知識、活動の必要性や重要性を一人ひとりに理解してもらうことです。



地域の見回り・点検

地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出し、防災マップや避難経路を見直す。

防災訓練

いざという時のために、地域一丸となって訓練を重ねる。

災害時の活動

情報の収集・伝達

公的機関と連絡を取り合い、情報を住民に伝える。

救出・救助

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助を行う。

初期消火活動

出火防止や初期消火活動をする。

自主防災組織は、非常時の応急活動の目標として、主に次のような活動を想定しているケースが多く見られます。



消防団とつくる地域防災

消防団は「自分たちの地域を災害から守りたい」という強い気持ちを持った方々で結成する、地域に深く根ざした組織です。

大規模な災害が発生した場合に、どうすれば地域の被害を軽減できるのかについて、地域の集会や自主防災訓練などの際に消防団と話し合い、顔の見える関係を築きましょう。



防災士とは

防災士とは十分な防災意識と一定の知識・技能を修得していることを日本防災士機構が認証した人です。

地域の防災力向上を目指し、自主防災組織等のリーダー的存在として防災意識の啓発や防災訓練等のさまざまな場で活動しています。

要配慮者にやさしい地域にしましょう

災害時に大きな被害を受けやすいのは、避難行動や、避難生活等で何らかの配慮が必要な「要配慮者」です。こうした人々を災害からどのようにして守るかを地域で話し合い、協力しながら支援していきましょう。

- 高齢者(ひとり暮らし・高齢者のみの世帯など)
- 障がいのある人(身体障がい者・知的障がい者など)
- 妊婦や乳幼児
- 難病患者や傷病者
- 外国人 など



安全な避難支援をする

耳が不自由な人には、身ぶりや筆談などで正しい情報を伝えましょう。目が不自由な人には、階段などの障害物を説明しながら進みましょう。



しっかり避難誘導する

ひとりの要配慮者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な体制を決めておきましょう。



要配慮者の身になる

道路に障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、要配慮者に対応した環境づくりをしましょう。



要配慮者に特に気を配る

非常時にこそ、困っている人や要配慮者に対し、温かい思いやりの心で接しましょう。



コミュニケーションをとる

災害時の支援活動をスムーズにするためには、要配慮者とのコミュニケーションを日ごろから図っておくことが大切です。



防災訓練へ参加する

要配慮者と一緒に避難経路や避難場所を確認できます。また、避難時に要配慮者がどのような支援が必要となるのかを知ることができます。



避難行動要支援者の支援体制づくりに協力しましょう

自宅で生活している要配慮者のうち、特に避難支援が必要な方の名簿「避難行動要支援者名簿」を作成しています。そのうち、情報提供に同意した方については次のような項目が記載された「個別避難計画」の作成をすすめており、平常時から地域の自治委員や自主防災組織などへ提供しています。

- 氏名、住所、連絡先、同居者の人数
- 緊急時の連絡先
- 必要な支援内容
- 自宅情報及び避難場所などの情報
- 避難支援等実施者の連絡先
- 支援に関する留意事項 など

プライバシーに配慮しながら地域で情報を共有し、隣近所の範囲でどのような助け合いができるか話し合っ、複数の人が手助けできる体制を作っておきましょう。